

保育所・小学校等訪問支援評価 結果公表

事業所名 NPO法人コミュニケーション・アシスト・ネットワーク
ひなたぼっこ

HP公表日 2025年12月16日

時期：	2025年10月14日～11月31日	職員討議	2025年12月12日
対象：	<p>上記の時期に訪問支援事業の利用があった施設A、利用児はA施設のa,b,cの3名だった。 なお、訪問支援員はxの1名だった。 注) x 以外の児発管、保健師、言語聴覚士、作業療法士、保育士が随時、多職種連携として同行訪問した。</p>		
方法：	<p>保育所・小学校等訪問支援事業を受け入れている訪問先施設の方に、評価表を手渡し、協力を依頼した。郵送で返送してもらった。</p>		
集計：	<p>評価は8項目について4段階で評価してもらった。それを点数化（3、2、1、0点）し集計した。合計点は3点×8項目＝24点が最高になる。最低は0点になる。Excelのピボットテーブルを使って分析した。 また、各項目ごとに自由記述欄を設けた。その記述を結果にまとめた。</p>		

回収結果

依頼数	1施設
回答数	1施設
回答率	100%

評価

2025年は訪問支援をしていたのが、1施設（利用児3名）だったので、3名について別々に回答してもらった。統計処理するほどのデータではないが、今後の経年変化を検討するために、一応ピボットテーブルに入れてみた。

		設問	ご意見
満足度	1	子どもは、ひなたぼっこから訪問支援員が来ることを楽しみにしていますか？	
	2	貴園・貴校の担当職員は、ひなたぼっこからの訪問支援の内容に満足していますか？	
説明・技術・頻度	3	訪問支援を開始する時の制度や計画の説明は、よくわかるものでしたか。	教材は、いつも参考にさせていただき、学校でも取り入れている。児童への接し方等も参考にしている。
	4	訪問支援員の知識・技術・教材等は、わかりやすく、取り入れやすいものですか。	
	5	訪問支援員は質問に対して、適切に回答してくれていますか。	
	6	訪問支援の頻度や回数は、適切なものでしたか。	
今後	7	訪問支援を利用して、貴園・貴校における課題や不安感が解消・軽減されましたか。	
	8	引き続き（or将来また機会があれば）、訪問支援を受け入れたいと思いますか	

各項目ごとの結果

整理番号	自発／放デ	①子供	②職員	③説明	④知識・技術・教材	⑤質問に解答	⑥頻度回数	⑦不安感解消	⑧将来受け入れるか	合計	列1
		楽しみ	満足								
1	放デ	2	3	2	3	3	3	2	3	21	
2	放デ	3	3	3	3	3	3	3	3	24	
3	放デ	3	3	3	3	3	3	3	3	24	
計		8	9	8	9	9	9	8	9		

評価

設問「訪問支援員の知識・技術・教材等は、わかりやすく、取り入れやすいものですか。」「訪問支援員は質問に対して、適切に回答してくれていますか。」「訪問支援の頻度や回数は、適切なものでしたか。」には3施設とも満点3点だった。

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること 工夫していること意識的に行っている取組	さらに充実を図るための取組等
1	具体的な支援技法を、教材を実際にやって見せながら説明し、納得してもらう。	現在の方法を継続する
2	小学校入学時には各自のサポート情報を、保護者の了解を得て教委・各小学校の提供している。	現在の方法を継続する

	事業所の弱みだと思われること 事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組等
1	訪問支援に関する理解が広まっておらず、最初の受け入れに抵抗感がある。一度受け入れた保育士・教員には好評でも、その人たちは翌年支援担当を外れたり、他校・園に転勤したりする。全く不要だと考える保育士・教員もいる。管理職の理解も浅い。	教育委員会や校長会・園長会に向けて、具体的に繰り返し説明していく。その機会を教委には求めているが、なかなか実現しない。
2	小学校入学時には各小学校に提供したサポート情報を、読んでいない担当者がある。	サポート情報を提供した児童については、毎年1学期に小学校訪問し、授業見学・情報交換をしている。現在の方法を地道に継続する。